

立教大学 社会情報教育研究センター

2011 年度 活動報告

目次

1. 事業活動日誌
2. 公開講演会、セミナー等
 - 1) 公開講演会
 - 2) セミナー
 - 3) 共催セミナー
 - 4) CSI 統計研究会・懇話会
3. 学会報告・研究報告 等
4. 資格支援事業
 - 1) 社会調査士資格支援
 - 2) 統計検定支援
5. 教育支援事業
 - 1) 正課提供科目
 - 2) オンデマンド学習コンテンツ
6. 研究支援
 - 1) 調査研究コンサルティング
 - 2) RUDA
 - 3) その他
7. 出版物等
8. 人事
9. 組織図
10. メンバー一覧および各種委員会

1. 事業活動日誌

月	日	内容
2011 年		
4	8	社会調査士 本申請提出
	21	NDK打合せ(図書館意識調査)
		第1回 統計懇話会(名古屋市総務局統計課)
	下旬	調査研究コンサルティング 対応
5	9	データアーカイブ打合せ
	11	調査研究 コンサルティング対応
	12	第1回 センター運営会議
	13	第1回 統計教育部会 定例会議
	16	調査研究コンサルティング 対応
	17	第1回 政府統計部会 定例会議
	19	第1回 センター連絡会議
		調査研究コンサルティング 対応
	20	第2回 統計教育部会 定例会議
	23	NDK打合せ(図書館意識調査)
	25	CSI統計分析セミナー Aコース(SPSS初歩の初歩1・池袋)
		調査研究コンサルティング 対応

	26	第2回 政府統計部会 定例会議
		第1回 社会調査部会 定例会議
		調査研究コンサルティング 対応
		調査研究コンサルティング 対応
	27	第3回 統計教育部会 定例会議
	30	CSI統計分析セミナー Bコース(SPSS初歩の初歩1・新座)
		調査研究コンサルティング 対応
6	1	社会調査士(見込み)資格申請の前期・科目証明書申請(～21日)
	2	統計活用セミナー Aコース(すたまる・すたなび・池袋)
		公的統計の二次利用制度説明会
		第3回 政府統計部会 定例会議
		第2回 社会調査部会 定例会議
	3	第4回 統計教育部会 定例会議
		社会調査士(見込み)資格申請の前期申請受付(～23日)
	6	統計活用セミナー Bコース(すたまる・すたなび・新座)
	8	CSI統計分析セミナー Cコース(SPSS初歩の初歩2・池袋)
	9	第2回 センター運営会議
		第4回 政府統計部会 定例会議
		第3回 社会調査部会 定例会議
	10	第5回 統計教育部会 定例会議
	13	CSI統計分析セミナー Dコース(SPSS初歩の初歩2・新座)
		CSI統計活用セミナー Cコース(G-Census の利用・池袋)
	16	第2回 センター連絡会議
		第4回 社会調査部会 定例会議
		第1回 統計研究会(総務省統計局小売物価統計室)
	17	第6回 統計教育部会 定例会議
	20	CSI 統計活用セミナー Dコース(POCOの利用・新座)
	22	CSI 統計分析セミナー Eコース(相関係数・池袋)
	23	第5回 政府統計部会 定例会議
		第5回 社会調査部会 定例会議
	24	第7回 統計教育部会 定例会議
	26	調査研究コンサルティング 対応
	27	CSI 統計分析セミナー Fコース(相関係数・新座)
	29	第2回 統計懇話会(日本銀行調査調査統計局・埼玉大学経済学部)
	30	CSI 統計活用セミナー Eコース(POCOの利用・池袋)
		第6回 政府統計部会 定例会議
		第6回 社会調査部会 定例会議
7	1	第8回 統計教育部会 定例会議
		調査研究コンサルティング 対応
	4	調査研究 コンサルティング対応
	6	CSI 統計分析セミナー Gコース(クロス集計表・池袋)
	7	第3回 センター運営会議
		第2回 センター委員会
		第7回 政府統計部会 定例会議
		第7回 社会調査部会 定例会議
	8	CSI 統計活用セミナー Fコース(RECOの利用・新座)
		第9回 統計教育部会 定例会議
	11	CSI 統計分析セミナー Hコース(クロス集計表・新座)
	14	CSI 統計活用セミナー Fコース(RECOの利用・池袋)
		第8回 政府統計部会 定例会議
	15	第10回 統計教育部会 定例会議

	20	調査研究コンサルティング 対応
	21	第3回 センター連絡会議
		第2回 統計研究会(総務省統計局経済基本構造統計課)
		第8回 社会調査部会 定例会議
	22	調査研究 コンサルティング対応
		調査研究 コンサルティング対応
	25	調査研究 コンサルティング対応
	29	調査研究 コンサルティング対応
8	8	高校生向けセミナー
		政府統計部会 長野県栄村調査出張(～10日)
	24	CSI 研究室 9号館3階へ移転
9	4	統計教育部会 日本統計学会 2011 年度連合大会にて発表・座長(～7日)
	5	日本統計協会より統計関係書籍の寄贈
		CSI Web サイトリニューアル打合せ(第1回)
	22	政府統計部会 長野県栄村出張調査報告会
	26	社会調査士(見込み)資格申請の後期・科目証明書申請(～10月17日)
	28	社会調査士(見込み)資格申請の後期申請受付(～10月19日)
		調査研究コンサルティング対応
	29	第9回 政府統計部会 定例会議
10	1	第2回 S1 科目講習会－専門社会調査士取得希望者のための講習会－(～2日)
	5	第11回 統計教育部会 定例会議
		調査研究コンサルティング対応
		統計分析セミナー IAコース(R 初歩の初歩(1)・池袋)
	6	第4回 センター運営会議
	8	第2回 S1 科目講習会－専門社会調査士取得希望者のための講習会－(～9日)
	11	第12回 統計教育部会 定例会議
		調査研究コンサルティング対応
		第1回 統計検定対策セミナー
	12	調査研究コンサルティング対応
	13	第4回 センター連絡会議
		調査研究コンサルティング対応(2件)
	19	統計分析セミナー IBコース(R 初歩の初歩(2)・池袋)
	20	統計活用セミナー Bコース(RECOの利用・池袋)
	24	総務省RUDAヒアリング打合せ
	25	第13回 統計教育部会 定例会議
		第2回 統計検定対策セミナー
		調査研究コンサルティング対応
		統計活用セミナー Cコース(POCOの利用・池袋)
	26	調査研究コンサルティング対応
		統計分析セミナー ICコース(SPSSの基礎・池袋)
	27	第10回 政府統計部会 定例会議
		第8回 社会調査部会 定例会議
11	8	第3回 統計検定対策セミナー
	9	統計分析セミナー IDコース(回帰分析入門(1)・池袋)
	10	第5回 センター運営会議
		調査研究コンサルティング対応
		統計教育部会 日本計算機統計学会 第25回シンポジウム大会にて研究報告(～13日・韓国釜山)
	14	統計分析セミナーNEコース(主成分分析入門・新座)
	17	第5回 センター連絡会議
	20	第1回 統計検定(団体受験)

	22	第 14 回 統計教育部会 定例会議
		統計活用セミナー E コース(G-Census の利用・池袋)
	23	統計分析セミナー IE コース(回帰分析入門(2)・池袋)
		調査研究コンサルティング対応(2件)
	24	第 11 回 政府統計部会 定例会議
	28	統計分析セミナー NF コース(因子分析入門・新座)
	30	統計分析セミナー IF コース(SPSS の基礎・池袋)
12	1	第3回 統計懇話会(デンマーク統計局経済モデル課・日本リサーチ総合研究所)
	2	岡山大学情報統括センター 来訪
	4	社会調査部会 札幌学院大学にてヒアリング調査(～5日)
	6	第 15 回 統計教育部会 定例会議
	7	統計分析セミナー IG コース(主成分分析入門・池袋)
	8	第6回 センター運営会議
		調査研究コンサルティング対応
	12	統計活用セミナー NG コース(R 初歩の初歩(1)・新座)
	13	統計分析セミナー G コース(すたまる・すたなび講習会・池袋)
		調査研究コンサルティング対応
	14	調査研究コンサルティング対応
	15	第6回 センター連絡会議
		調査研究コンサルティング対応(2件)
	19	統計分析セミナー NH コース(R 初歩の初歩(2)・テレプレゼンスでのセミナー新座)
	20	社会調査協会へ社会調査士科目・専門社会調査士科目の申請
	21	統計活用セミナー NH コース(R 初歩の初歩(2)・対面式新座)
		統計活用セミナー IH コース(因子分析入門・池袋)
	22	調査研究コンサルティング対応
2012 年		
1	10	第 16 回 統計教育部会 定例会議
	11	統計分析セミナー II コース(分類のための多変量解析・池袋)
	16	調査研究コンサルティング対応
	19	第7回 センター運営会議
		第 12 回 政府統計部会 定例会議
	26	第7回 センター連絡会議
		第 13 回 政府統計部会 定例会議
	30	調査研究コンサルティング対応
		第 14 回 政府統計部会 定例会議
	31	第3回 統計研究会(日本銀行 調査統計局 物価統計課長)
2	7	科目証明書システム移行に関する打合せ
	13	科目証明書システム移行に関する打合せ
	16	科目証明書システム移行に関する打合せ
	17	第 17 回 統計教育部会 定例会議
		第 15 回 政府統計部会 定例会議
	22	科目証明書システム移行に関する打合せ
	29	公開講演会(統計教育フォーラム)
		社会調査士資格申請の科目証明書申請受付(～3月14日)
3	1	日本統計協会来訪
		第 16 回 政府統計部会 定例会議
	3	第2回 S2科目講習会－専門社会調査士取得希望者のための講習会－(～4日)
	6	調査研究コンサルティング対応
	9	第8回 センター運営会議
	10	第2回 S2科目講習会－専門社会調査士取得希望者のための講習会－(～11日)
	23	社会調査士資格申請受け付け(～30日)

		第 17 回 政府統計部会定例会議
	27	第 18 回 統計教育部会
	28	第8回 センター連絡会議

2. 公開講演会、セミナー等

1) 公開講演会

テーマ 統計教育と数量リテラシー - その教育方法と評価について-

開催日 2012 年 2 月 29 日(水)

場所 立教大学池袋キャンパス マキムホール M201 教室

参加人数 10 名

講演者・タイトル

Adult numeracy and statistical literacy : Conceptual , educational and assessment challenges

Iddo Gal (イスラエル ハイファ大学上級講師)

2) セミナー

2011 年前期 CSI 統計分析セミナー

● 統計分析ソフト SPSS による統計分析(池袋・新座キャンパス開催)

A コース

講義内容 統計分析ソフト SPSS 初歩の初歩(1)

～SPSS で単純集計を行う方法～(度数分布表・代表値と散布度の指標・クロス集計表)

開催日 5 月 25 日(水)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8402 教室

講 師 金澤 悠介(CSI 助教)

参加人数 6 名

B コース

講義内容 統計分析ソフト SPSS 初歩の初歩(1)

～SPSS で単純集計を行う方法～(度数分布表・代表値と散布度の指標・クロス集計表)

開催日 5 月 30 日(月)

場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N823 教室

講 師 金澤 悠介(CSI 助教)

参加人数 4 名

C コース

講義内容 統計分析ソフト SPSS 初歩の初歩(2)

～SPSS でデータを扱う方法を学ぶ～(データの入力・変数の加工・シンタクス)

開催日 6 月 8 日(水)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8402 教室

講 師 金澤 悠介(CSI 助教)

参加人数 11 名

Dコース

講義内容 統計分析ソフト SPSS 初歩の初歩(2)

～SPSS でデータを扱う方法を学ぶ～(データの入力・変数の加工・シンタクス)

開催日 6月13日(月)

場 所 立教大学新座キャンパス 8号館 N823 教室

講 師 金澤 悠介(CSI 助教)

参加人数 6名

Eコース

講義内容 相関係数をマスターする

相関係数の使用方法(相関係数・偏相関係数・SPSS での使用法)

開催日 6月22日(水)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室

講 師 金澤 悠介(CSI 助教)

参加人数 14名

Fコース

講義内容 相関係数をマスターする

相関係数の使用方法(相関係数・偏相関係数・SPSS での使用法)

開催日 6月27日(月)

場 所 立教大学新座キャンパス 8号館 N823 教室

講 師 金澤 悠介(CSI 助教)

参加人数 4名

Gコース

講義内容 クロス集計表をマスターする

クロス集計表の使用方法(二重クロス表・カイ2乗検定・三重クロス表・SPSS での使用法)

開催日 7月6日(水)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室

講 師 金澤 悠介(CSI 助教)

参加人数 7名

Hコース

講義内容 クロス集計表をマスターする

クロス集計表の使用方法(二重クロス表・カイ2乗検定・三重クロス表・SPSS での使用法)

開催日 7月11日(月)

場 所 立教大学新座キャンパス 8号館 N823 教室

講 師 金澤 悠介(CSI 助教)

参加人数 3名

2011年後期 CSI 統計分析セミナー

●統計分析ソフトによる統計分析(池袋キャンパス開催)

IAコース

講義内容 統計分析ソフト R 初歩の初歩(1)

Rでデータを扱う方法を学ぶ（インストール方法・データの入力・ライブラリーの読み込み・基本文法）

開催日 10月5日(水)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8501 教室

講 師 田中 潮(CSI 学術調査員)

参加人数 5名

IBコース

講義内容 統計分析ソフト R 初歩の初歩（2）

R コマンドを学ぶ（度数分布表・代表値と散布度の指標・クロス集計表・相関係数・回帰分析）

開催日 10月19日(水)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8501 教室

講 師 田中 潮(CSI 学術調査員)

参加人数 6名

ICコース

講義内容 SPSS の基礎

SPSS の基本的な操作を学ぶ（データの作成・単純集計・グラフの作成）

開催日 10月26日(水)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8501 教室

講 師 金澤 悠介(CSI 助教)

参加人数 11名

IDコース

講義内容 回帰分析入門（1）

回帰分析の基礎的な考え方を学ぶ（単回帰分析・重回帰分析・SPSS での使用法）

開催日 11月9日(水)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8501 教室

講 師 金澤 悠介(CSI 助教)

参加人数 12名

IEコース

講義内容 回帰分析入門（2）

回帰分析の発展的な考え方を学ぶ（ダミー変数・回帰診断・SPSS での使用法）

開催日 11月23日(水)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8501 教室

講 師 金澤 悠介(CSI 助教)

参加人数 8名

IFコース

講義内容 SPSS の基礎

SPSS の基本的な操作を学ぶ（データの作成・単純集計・グラフの作成）

開催日 11月30日(水)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8501 教室
講 師 金澤 悠介(CSI 助教)
参加人数 6 名

IG コース

講義内容 主成分分析入門

主成分分析の基礎的な考え方を学ぶ（主成分分析の概要・主成分数の決定・SPSS での使用方法）

開催日 12 月 7 日(水)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8501 教室

講 師 金澤 悠介(CSI 助教)

参加人数 8 名

IH コース

講義内容 因子分析入門

因子分析の基礎的な考え方を学ぶ（因子分析の概要・最尤法による因子分析・SPSS での使用方法）

開催日 12 月 21 日(水)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8501 教室

講 師 金澤 悠介(CSI 助教)

参加人数 10 名

II コース

講義内容 分類のための多変量解析（クラスター分析と潜在クラス分析）

分類のための多変量解析法を学ぶ（クラスター分析・潜在クラス分析・LEM の使い方）

開催日 1 月 11 日（水）

場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8501 教室

講 師 山口 和範（経営学部 教授）

参加人数 6 名

*IC コースと IF コースは同一内容

● 統計分析ソフトによる統計分析(新座キャンパス開催)

NAコース

講義内容 SPSS の基礎

SPSS の基本的な操作を学ぶ（データの作成・単純集計・グラフの作成）

開催日 10 月 7 日(金)

場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N831 教室

講 師 金澤 悠介(CSI 助教)

予約者不在のため開講中止

NBコース

講義内容 回帰分析入門（1）

回帰分析の基礎的な考え方を学ぶ（単回帰分析・重回帰分析・SPSS での使用法）

開催日 10 月 10 日(月)

場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N831 教室
講 師 金澤 悠介(CSI 助教)
予約者不在のため開講中止

NCコース

講義内容 回帰分析入門 (2)
回帰分析の発展的な考え方を学ぶ (ダミー変数・回帰診断・SPSS での使用法)
開催日 10 月 24 日(月)
場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N831 教室
講 師 金澤 悠介(CSI 助教)
予約者不在のため開講中止

NDコース

講義内容 SPSS の基礎
SPSS の基本的な操作を学ぶ (データの作成・単純集計・グラフの作成)
開催日 11 月 11 日(金)
場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N831 教室
講 師 金澤 悠介(CSI 助教)
都合により開催中止

NEコース

講義内容 主成分分析入門
主成分分析の基礎的な考え方を学ぶ (主成分分析の概要・主成分数の決定・SPSS での使用方法)
開催日 11 月 14 日(月)
場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N831 教室
講 師 金澤 悠介(CSI 助教)
参加人数 1 名

NF コース

講義内容 因子分析入門
因子分析の基礎的な考え方を学ぶ (因子分析の概要・最尤法による因子分析・SPSS での使用方法)
開催日 11 月 28 日(月)
場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N831 教室
講 師 金澤 悠介(CSI 助教)
参加人数 2 名

NG コース

講義内容 統計分析ソフト R 初歩の初歩 (1)
R でデータを扱う方法を学ぶ (インストール方法・データの入力・ライブラリーの読み込み・基本文法)
開催日 12 月 12 日(月)
場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N831 教室

講 師 田中 潮(CSI 学術調査員)

参加人数 4 名

NH コース

講義内容 統計分析ソフト R 初歩の初歩(2)

R コマンダーを学ぶ(度数分布表・代表値と散布度の指標・クロス集計表・相関係数・回帰分析)

開催日 12月 19 日(月)

場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 テレプレゼンス室

講 師 田中 潮(CSI 学術調査員)

参加人数 3 名

* 池袋・新座キャンパス間をつなぐ遠隔会議システムを利用した講義形式のセミナーを行った。

2011年 CSI 統計活用セミナー

●2011 年前期 CSI 統計活用セミナー(池袋・新座キャンパス開催)

Aコース

講義内容 すたまる・すたなび講習会

統計学習を網羅したコンテンツと公的統計データの扱い方などの基本を学習する。

開催日 6 月 2 日(木)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8302 教室

講 師 櫻本 健(経済学部 助教)

参加人数 8 名

Bコース

講義内容 すたまる・すたなび講習会

統計学習を網羅したコンテンツと公的統計データの扱い方などの基本を学習する。

開催日 6 月 6 日(月)

場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N823 教室

講 師 櫻本 健(経済学部 助教)

参加人数 2 名

Cコース

講義内容 統計地図を作成する(G-Census の利用)

国や地域の地図を作成し、地図上に必要な統計データを表示する統計 GIS について学ぶ。

開催日 6 月 13 日(月)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8302 教室

講 師 小西 純((財)統計情報研究開発センター研究員)

参加人数 25 名

Dコース

講義内容 将来人口を推計する(POCO の利用)

国や地域の将来人口推計を行い、人口ピラミッドを作成する。

開催日 6 月 20 日(月)

場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N823 教室

講 師 藤野 裕(経済学部 助教)
予約者不在のため開講中止

Eコース

講義内容 将来人口を推計する(POCO の利用)
国や地域の将来人口推計を行い、人口ピラミッドを作成する。
開催日 6 月 30 日(木)
場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8302 教室
講 師 藤野 裕(経済学部 助教)
参加人数 19 名

Fコース

講義内容 経済波及効果を測定する(RECO の利用)
東京スカイツリーの建設効果など経済波及効果の分析を行う。
開催日 7 月 8 日(金)
場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N823 教室
講 師 倉田知秋(CSI 学術調査員)
予約者不在のため開講中止

Gコース

講義内容 経済波及効果を測定する(RECO の利用)
東京スカイツリーの建設効果など経済波及効果の分析を行う。
開催日 7 月 14 日(木)
場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8302 教室
講 師 倉田知秋(CSI 学術調査員)
参加人数 28 名
* AコースとBコース、DコースとEコース、FコースとGコースは同一内容。

●2011 年後期 CSI 統計活用セミナー(池袋・新座キャンパス開催)

Aコース

講義内容 経済波及効果を測定する(RECO の利用)
東京スカイツリーの建設効果など経済波及効果の分析を行う。
開催日 10 月 13 日(木)
場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N831 教室
講 師 倉田知秋(CSI 学術調査員)
予約者不在のため開講中止

Bコース

講義内容 経済波及効果を測定する(RECO の利用)
東京スカイツリーの建設効果など経済波及効果の分析を行う。
開催日 10 月 20 日(木)
場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8501 教室
講 師 倉田知秋(CSI 学術調査員)
参加人数 2名

Cコース

講義内容 将来人口を推計する(POCO の利用)

国や地域の将来人口推計を行い、人口ピラミッドを作成する。

開催日 10 月 25 日(火)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8402 教室

講 師 藤野 裕(経済学部 助教)

参加人数 1 名

Dコース

講義内容 将来人口を推計する(POCO の利用)

国や地域の将来人口推計を行い、人口ピラミッドを作成する。

開催日 11 月 10 日(木)

場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N831 教室

講 師 小野寺 剛(CSI 助教)

予約者不在のため開講中止

E コース

講義内容 統計地図を作成する(G-Census の利用)

国や地域の地図を作成し、地図上に必要な統計データを表示する統計 GIS について学ぶ。

開催日 11 月 22 日(火)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8402 教室

講 師 小西 純((財)統計情報研究開発センター研究員)

参加人数 33 名

F コース

講義内容 すたまる・すたなび講習会(新座)

統計学習を網羅したコンテンツと公的統計データの扱い方などの基本を学習する。

開催日 12 月 1 日(木)

場 所 立教大学新座キャンパス 8 号館 N831 教室

講 師 小野寺 剛(CSI 助教)

予約者不在のため開講中止

G コース

講義内容 すたまる・すたなび講習会(池袋)

統計学習を網羅したコンテンツと公的統計データの扱い方などの基本を学習する。

開催日 12 月 13 日(火)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8402 教室

講 師 櫻本 健(経済学部 助教)

参加人数 14 名

*AコースとBコース、DコースとEコース、FコースとGコースは同一内容。

統計検定対策セミナー

2011年11月20日に初めて開催された統計検定の、立教大学団体受験にて受験した学生を対象として、受験対象レベルに合わせた試験対策のセミナーを3回開催した。

- 講義内容 統計検定全体の試験対策、2級・3級受験者を対象としたセミナー

開催日 10月11日(火)

場所 立教大学池袋キャンパス 10号館 X201 教室

講師 山口 和範(経営学部 教授)

参加人数 4名

- 講義内容 統計検定3級の試験対策セミナー

開催日 10月25日(火)

場所 立教大学池袋キャンパス 10号館 X201 教室

講師 田中 潮(CSI 学術調査員)

参加人数 8名

- 講義内容 統計検定2級の試験対策セミナー

開催日 11月8日(火)

場所 立教大学池袋キャンパス 10号館 X201 教室

講師 田中 潮(CSI 学術調査員)

参加人数 3名

その他セミナー

- 高校生向け統計教育セミナー

講義内容 「統計的思考力:仮説の検証ーデータを活用し、判断するー」

開催日 8月8日(月)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館 8402 教室

講 師 山口 和範(経営学部教授)

参加者 千葉市立千葉高等学校 の生徒・引率教諭 計 16 名

3) 共催セミナー

- ◆ 第2回 S1 科目講習会ー専門社会調査士取得希望者のための講習会ー

開催 2011年10月1日(土)・2日(日)・8日(土)・9日(日)

場所 立教大学 池袋キャンパス 11号館 A304 教室・8号館 8402 教室

主催 (社)社会調査協会 ※当センターは開催協力

講師 菅野 剛(日本大学)

飯島 賢志(武蔵丘短期大学)

木村 好美(早稲田大学)

三井 さよ(法政大学)

タイトル

1. オリエンテーション：社会調査の意義と役割
2. 社会調査の歴史・倫理
3. 社会調査の種類と実例：政府統計と様々な社会調査
4. 質的調査の概要：事例研究法・フィールドワーク

5. 多様な質的調査の方法と実際
6. 量的調査の企画・設計：調査テーマ・仮説構成について
7. 質問文・選択肢の作り方と調査票の構成
8. 調査の実施方法：調査モードと回収率
9. サンプリングの考え方と理論
10. サンプリングの実際：種類と方法、サンプル・サイズの決定
11. 調査データの整理：エディティング・コーディング・データ入力
12. 単純集計・度数分布とデータクリーニング
13. 平均・分散・標準偏差
14. 分布の読み方
15. クロス集計の読み方
16. 因果関係と相関関係
17. 調査データ・グラフを読み解く能力
18. 調査報告書のまとめかた
19. 全体のまとめ
20. 最終試験

◆ 第2回 S2科目講習会—専門社会調査士取得希望者のための講習会—

開催 2012年3月3日(土)・4日(日)・10日(土)・11日(日)

場所 立教大学 池袋キャンパス 8号館 8501教室

主催 (社)社会調査協会 ※当センターは開催協力

講師 保田 時男(大阪商業大学)

村尾 祐美子(東洋大学)

水落 正明(三重大大学)

三輪 哲(東北大学)

タイトル

1. 統計データと統計分析ソフト
2. 代表値とばらつき
3. 関連を捉える
4. 確率論の基礎
5. 統計的なプレゼンテーション
6. 統計的推測の基礎
7. 統計的推定
8. 統計的検定
9. クロス表の検定
10. 相関と回帰
11. 中間試験
12. 多変量解析の目的と意義
13. 重回帰分析の基礎
14. 重回帰分析の実際
15. 重回帰分析の限界と他のモデルへの拡張
16. さまざまな多変量解析
17. その他の多変量解析 1(分散分析)

18. その他の多変量解析 2(主成分分析)
19. その他の多変量解析 3(探索的因子分析)
20. レポート作成実習

◆ スポーツと統計科学の融合シンポジウムⅡ 第1回スポーツデータ解析コンペティション優秀賞報告会

開 催 2012 年 3 月 29 日(木)

場 所 政策研究大学院大学 会議室 1A、1B、1C

主 催 統計数理研究所 日本統計学会スポーツ統計分科会 日本統計学会統計教育分科会
日本統計学会統計教育委員会 立教大学社会情報教育研究センター

統計数理研究所共同研究「スポーツデータの統計解析に関する研究」(研究代表者:酒折文武)
科学研究費・基盤研究(B)「予測・因果・不完全データ解析とサイエンスの基礎」(研究代表者:
狩野裕)

科学研究費・基盤研究(B)「知識基盤社会を支える統計教育の新展開ー小中高と大学・社会を
繋ぐ教育システムの研究」(研究代表者:渡辺美智子)

協 賛 データスタジアム(株)

プログラム

開会挨拶

特別講演1「複雑に見えるスポーツ・身体運動に潜む規則性を探る」 山本 裕二(名古屋大学
総合保健体育科学センター)

第1回スポーツデータ解析コンペティション受賞者講演

優秀賞「社会ネットワーク分析を用いたサッカーナショナルチームの攻撃パターンの評価と比
較」 石井 涼、北野 道春(同志社大学大学院 文化情報学研究科)、宿 久洋(同志社大
学 文 化情報学部)

特別賞(データスタジアム賞)「マルコフ連鎖モデルを用いた球種選択の考察」上原 早霧、赤坂
拓哉、小川 光紀、竹村 彰通、沼田 泰英、茂木 隼(東京大学大学院 情報理工学系研究
科)

優秀賞「「好不調の波」のパターンを探るー状態空間モデルを利用した選手の分類ー」柳沢 圭
介(中央大学大学院 理工学研究科)、酒折 文武(中央大学 理工学部)

最優秀賞「視覚化法を用いた投手の特徴把握について」谷岡 健資、高木 育史(同志社大学
大学院 文化情報学研究科)、宿 久洋(同志社大学 文化情報学部)

特別講演2「パズル:マ☆リックスの空☆を埋める」廣瀬 英雄(九州工業大学)

閉会挨拶と第2回(2012 年度)スポーツデータ解析コンペティションの開始説明

4) CSI 統計研究会・懇話会

CSI 統計研究会は、国家レベルの統計実務者をゲストに迎え、統計の現場で起こっている事をテー
マに報告をしていただいた。統計懇話会は地方行政担当者および公的統計のスペシャリストを迎え、
統計に関するディスカッションを行った。

● 第1回 統計研究会

開 催 6 月 16 日(木)

場 所 立教大学池袋キャンパス 12 号館地下 第4会議室

講 師 永島 勝利(総務省統計局 物価統計室長)

タイトル 消費者物価指数の作成と基準改定

参加人数 15 名

- **第2回 統計研究会**

開 催 7月21日(木)

場 所 立教大学池袋キャンパス 13号館1階会議室

講 師 岩佐 哲也(総務省 統計局 経済基本構造統計 課長)
保高 博之(総務省 統計局 経済基本構造統計 課長補佐)

タイトル 経済センサスの創設と基礎調査結果の概要

参加者 18 名

- **第3回 統計研究会**

開 催 2012年1月31日(火)

場 所 立教大学 池袋キャンパス 12号館2階会議室

講 師 亀田 制作(日本銀行 調査統計局 物価統計課長)

タイトル サービス産業の重要性とその統計整備を巡る課題～企業向けサービス価格指数
の視点から～

参加者 7 名

- **第1回 統計懇話会**

開 催 4月21日(木)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館4階 社会情報教育研究センター

講 師 安田 裕樹(名古屋市総務局統計課)
林 邦浩(名古屋市総務局統計課)

タイトル 地方行政における統計利活用法

参加者 5 名

- **第2回 統計懇話会**

開 催 6月29日(水)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館4階 社会情報教育研究センター

講 師 荻野 寛(日本銀行 調査統計局 統計整備担当企画役)
李 潔(埼玉大学 経済学部 教授)

タイトル 日本銀行：東日本大震災後の対応、短観のオーダーメイド集計

参加者 7 名

- **第3回 統計懇話会**

開 催 12月1日(木)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8号館4階 社会情報教育研究センター

講 師 Michael Osterwald-Lenum(デンマーク統計局 経済モデル課)
二上 唯夫(日本リサーチ総合研究所)

タイトル The annual Danish macro-econometric model ADAM (Michael Osterwald-Lenum)
Database for Estimation of JSNA (二上)

Economic Earthquakes - The case of Japan (Michael Osterwald-Lenum)

参加者 7 名

3. 学会報告・研究報告 等

- 2011 年度 統計関連学会連合大会

開 催 2011 年 9 月 6 日(4～7 日)

開催地 九州大学 伊都キャンパス

報告者 田中 潮 (CSI 学術調査員)

タイトル 立教大学における統計関連科目の e-learning 展開とその教育成果について

報告内容 2010 年 3 月に設立された立教大学社会情報教育研究センター(CSI)の紹介。CSI が提供しており、2010 年度から開講されている e-learning 科目の内容とその教育成果について、e-learning と対面授業との結果を比較・検討し報告した。

- 日本計算機統計学会 第 25 回シンポジウム

(Joint Meeting of the Korea-Japan Conference of Computational Statistics and the 25th Symposium of Japanese Society of Computational Statistics)

開 催 2011 年 11 月 11 日(11～12 日)

開催地 海雲台グランドホテル HAEUNDAE GRAND HOTEL(韓国・釜山)

報告者 金澤悠介 (CSI 助教)

タイトル An e-learning Course for Multivariate Analysis: The case of Rikkyo University

報告内容 e-Learning として多変量解析に特化した、社会調査士資格認定科目のうちの E 科目において展開されているコース内容の紹介と、それによる教育成果向上について討論した。

- 調査報告書「3.12 震災を乗り越え、結いの心で美しい自然を守る
—豪雪の地：長野県栄村を統計で捉える—」

発 行 2012 年 3 月 26 日 200 部

編 著 菊地 進(経済学部教授)

タイトル はじめに

第 1 部 3.12 震災の被害状況

1 章 栄村の基本情報

2 章 震災発生後の村役場および関係機関の動向

3 章 データと写真で伝える栄村の被害状況

4 章 長野県栄村における文化財保全活動とその意義を考える

—文化財保全活動参加レポート 2011 年 8 月 7 日～8 日—

第 2 部 CSI 統計教育コンテンツで把握する栄村

1 章 社会人口統計体系が伝える栄村の位置

2 章 G-Census でみる栄村の位置

3 章 栄村の将来人口推計

第 3 部 統計の背後にある事実—栄村の現状を伝える—

1 章 自然を育む栄村—小さくとも輝く意味—

2 章 栄村の就業構造—栄村と周辺地域の主要産業の比較—

3 章 栄村の農業—高齢化と震災の中で—

4 章 栄村の集落—過疎と少子高齢化の集落間格差—

5 章 栄村の財政—震災の影響を踏まえて—

6 章 栄村の独自事業—地域の環境にあわせた展開—

7 章 栄村の観光事業—栄村における取組みと震災の影響—

第4部 村長インタビュー 結いのところで村民本意の村づくりー3.12 震災からの復興を目指す長野県栄村ー

付録 1 統計にみる栄村のランキング
2 長野県栄村調査出張日

執筆者一覧	菊地 進 (経済学部教授)	第3部1章
	藤野 裕 (経済学部助教)	第2部2章、第3部2章
	関根 佳恵 (経済学部助教)	第3部3章
	三田 泰雅 (CSI 学術調査員)	第2部3章、第3部4章
	倉田 知秋 (CSI 学術調査員)	第2部1章・3章、第3部5章～7章、付録1
	荒井 美智江 (CSI 助手)	第1部1章～4章、第4部(構成)、付録2

4. 資格支援事業

1) 社会調査士資格

「社会調査士」と「専門社会調査士」の2つの資格は、いずれも一般社団法人 社会調査協会が認定するものである。社会調査の知識と技能を有する専門的な人材の育成を目的としている。

いずれの資格も、専門知識や技法を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」であることを想定しており、「社会調査士」は社会調査の基礎能力を有する専門家として、「専門社会調査士」はさらに高度な調査能力を身につけたプロの社会調査士と位置づけられている。当センターでは、立教大学を社会調査協会に、教育組織会員として登録を行った。また当センターの助教が連絡責任者となり、学内の指定科目申請登録のサポートや学生の資格取得支援を行っている。

また2012年度より、社会調査士認定科目証明書を発行するシステムを当センターに全面的に移行するプロジェクトを2011年に行った。2012年6月よりの実施にむけ、運用システムの構築と移行を行った。これにより立教大学事務部教務課の業務負担の軽減を目指すとともに、該当学生においては証明書発行料金の軽減という利益がはかれる予定である。

2012年度に社会学部においてカリキュラムが大幅に改訂された。その改訂されるカリキュラムに対応するべく指定科目の認定手続きを遺漏なく行うため、当センターと学部間で数回の打ち合わせを行い、指定科目認定申請作業を行った。

社会調査士(見込み)資格取得申請	前期申請者 44名・後期申請者 100名 合計 144名
社会調査士 資格取得申請	134名
専門社会調査士 資格取得申請	1名

社会調査士(見込み) 申請業務

前期	申請期間	2011年 6月1日(水)～6月21日(火)
	提出期間	2011年 6月3日(金)～6月23日(木)
後期	申請期間	2011年 9月26日(月)～10月17日(月)
	提出期間	2011年 9月28日(水)～10月19日(水)

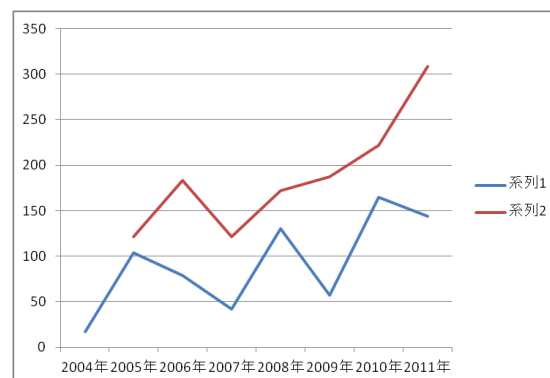
社会調査士・専門社会調査士 申請

申請期間	2012年 2月29日(水)～3月14日(水)
提出期間	2011年 3月23日(金)～3月31日(金)

➤ 立教大学における社会調査士資格ならびに見込み資格申請の推移について

年度	見込申請者数	前年累計
2004年	17	
2005年	104	121
2006年	79	183
2007年	42	121
2008年	130	172
2009年	57	187
2010年	165	222
2011年	144	309

2010年度よりCSI社会調査士資格支援開始



立教大学における社会調査士資格の見込み申請者数は、上記の表の通り、段階的ではあるが増加傾向にある。また 2010 年度より当センターにて申請を受け付けているが、学生間においても当センターの認知度は深まっている。当センターへの申請に関する問い合わせ・相談件数は 2011 年度は 30 件に及んだが、前年度の 15 件の 2 倍の件数となっており、認知度の深まりを実証しているといえよう。

また下記の表は、2004 年度から 2011 年度末までの、社会調査士ならびに専門社会調査士の申請者数の推移である。この表をみても、年々申請者数は増加傾向にあるとともに、池袋・新座両キャンパスにおいても、社会調査士資格を取得可能とする学部は増えており、全学部的に支援をおこなう機関の必要性は増していると考えられる。当センターにおいて各学部との連絡を密にとりつつ、支援体制をいっそう整えていく重要性を感じている。

社会調査士・専門社会調査士申請数 (2004年3月～2012年3月)										
	コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科	観光学部 交流文化学科	社会学部 社会学科	社会学部 メディア社会学科	社会学部 現代文化学科	社会学部 産業関係学科	経営学部 経営学科	経営学部 国際経営学科	社会学研究科	総計
第1回(2004年)						3				3
第2回(2005年)			1			6				7
第3回(2006年)			13		12	17				42
第4回(2007年)			33		11	33				77
第5回(2008年)			12		16	28			1	57
第6回(2009年)			13		11	10				34
第7回(2010年)	36		19	11	18	2	1			87
第8回(2011年)	21		26	4	31		5	3	1	91
第9回(2012年)	32	10	32	20	32		6	1	1	134
学科合計	89	10	149	35	131	99	12	4	3	532

注1) 社会学研究科は社会調査士・専門社会調査士同時取得者
注2) 産業関係学科は2007年度より募集停止

2) 第1回 統計検定支援

2011 年 11 月 20 日(日)に、統計質保証推進協会ならびに統計検定センター主催による、第1回統計検定が実施された。本学は団体受験を申し込み、協会よりその実施を認められた。

今回は初回であるということと、団体受験認定より申し込み〆切日までの期間が短かったため、準備体制も十分とは言えない状況であった。

この検定は、文科省および日本学術会議による「大学教育の分野別質保証」の一環として実施された試験であり、統計教育の質の保証との関連で位置づけることができる。

今後も当センターが各学部に活用を呼び掛け、学生に受験を促していきたい。また受験生にはそれぞれのレベルに合わせた対策セミナーを開催し、受験を全面的に支援していく。ただし、この試験をクリアする

こと自体が大学における統計教育の目的ではなく、その基礎の上に各学部の特Ⓕ分野の知識を結びつけ、活用できるようにすることが肝要である。

実施日 2011 年 11 月 20 日(日)

会 場 立教大学 池袋キャンパス 8 号館 8304 教室

受験者内訳 3 級(データの分析) 31 名

2 級(統計学基礎(大学基礎科目)) 5 名

5. 教育支援事業

1) 正課科目の開発・提供

2011年度は、全学共通カリキュラムのオンデマンド授業「社会調査入門」・「データ分析入門」・「社会調査の技法」・「データの科学」・「多変量解析」の運営を行った。なお、これら 5 科目は、社会調査士資格認定科目となっている。また、2013 年度開講を目指し、「社会と統計(仮題)」の授業用コンテンツの新規開発を行った。加えて、2011年度開講科目に関して、2011 年 12 月～2 月にかけて、学生アルバイトを 16 名雇用し、授業教材のモニター作業を行った。この作業をもとに、授業教材の改善点のリストアップ作業を行った。

『社会調査入門』

担当者:廣瀬 毅士(CSI 助教)

教育コーチ:三田 泰雅(CSI 学術調査員)

本柳 亨

授業の目標:社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を理解し、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について概説する。

社会調査士資格認定科目「A」に対応。

受講者数:142 名

授業内容:

- 第 1 講 社会調査の目的
- 第 2 講 社会調査の諸方法
- 第 3 講 社会調査の歴史:欧米
- 第 4 講 社会調査の歴史:日本
- 第 5 講 調査対象の選出方法
- 第 6 講 量的調査法の種類と特徴
- 第 7 講 質問紙調査の調査プロセス(1)
- 第 8 講 質問紙調査の調査プロセス(2)
- 第 9 講 質問紙調査の調査プロセス(2)
- 第 10 講 質的調査法の概要と種類
- 第 11 講 自由面接法の種類と方法
- 第 12 講 自由面接法の調査プロセス(1)
- 第 13 講 自由面接法の調査プロセス(2)
- 第 14 講 観察法・ドキュメント分析の調査プロセス
- 第 15 講 調査倫理と社会調査の諸問題

『社会調査の技法』

担当者:廣瀬 毅士(CSI 助教)

教育コーチ :三田 泰雅(CSI 学術調査員)

授業の目標

社会調査の技法的な側面に注目し、調査の企画・設計からデータの収集と整理に関する具体的な方法について解説する。

社会調査士資格認定科目「B」に対応。

受講者数:107 名

授業内容

- 第1講 社会調査とは何か
- 第2講 社会調査の企画
- 第3講 調査方法を選ぶ
- 第4講 標本設計の方法
- 第5講 標本調査の実際
- 第6講 調査票を作る
- 第7講 質問文の作り方
- 第8講 選択肢の作り方
- 第9講 調査の実施
- 第10講 データの作成と集計・分析
- 第11講 質的調査の概説
- 第12講 フィールドワーク
- 第13講 インタビュー
- 第14講 参与観察
- 第15講 論文・報告書の作成

『データ分析入門』

担当者:金澤 悠介(CSI 助教)

教育コーチ :田中潮(CSI 学術調査員)

野尻洋平(立教大学大学院 社会学研究科博士後期課程)

授業の目標

社会調査データの分析の基本的な知識を修得し、データの記述や簡単な二変数の関連を分析し、結果を適切に整理できるようになる。

社会調査士資格認定科目「C」に対応。

受講者数:91 名

授業内容

- 第1講 統計を学ぶ
- 第2講 変数の性質とデータ分析の方法
- 第3講 データを記述する(1)
- 第4講 データを記述する(2)
- 第5講 データを記述する(3)
- 第6講 データを記述する(4)
- 第7講 データを記述する(5)
- 第8講 データを記述する(6)
- 第9講 2つの変数の関連を探る(1)

- 第10講 2つの変数の関連を探る(2)
- 第11講 2つの変数の関連を探る(3)
- 第12講 2つの変数の関連を探る(4)
- 第13講 回帰分析の基礎
- 第14講 擬似相関と変数の統制
- 第15講 時系列データの分析

『データの科学』

担当者:小野寺 剛(CSI 助教)
教育コーチ :倉田 知秋(CSI 学術調査員)
授業の目標

社会について考え、課題を解決する道具として社会調査データ分析を位置づけ、
データを用いて推論や仮説を検証するための手法を体得する。
社会調査士資格認定科目「D」に対応。

受講者数:71 名

授業内容

- 第1講 記述統計学と推測統計学
- 第2講 標本抽出(1)
- 第3講 確率と確率分布
- 第4講 標本抽出(2)
- 第5講 統計的推定(1)
- 第6講 統計的推定(2)
- 第7講 統計的推定(3)
- 第8講 統計的検定(1)
- 第9講 統計的検定(2)
- 第10講 2つの平均値の差の検定
- 第11講 分散分析
- 第12講 カイ2乗検定
- 第13講 3重クロス表の分析
- 第14講 相関と回帰
- 第15講 因果への挑戦

『多変量解析入門』

担当者:金澤 悠介(CSI 助教)
教育コーチ :田中潮(CSI 学術調査員)
授業の目標

データに潜む重要な情報を明らかにする方法として多変量解析を位置づけ、基本的な考え方、代表的な手法、および社会における活用法を理解する。
社会調査士資格認定科目「E」に対応。

受講者数:27 名

授業内容

- 第1講 多変量解析とは何か?
- 第2講 記述統計学と推測統計学の復習
- 第3講 相関係数と偏相関係数

- 第4講 重回帰分析(1)
- 第5講 重回帰分析(2)
- 第6講 重回帰分析(3)
- 第7講 二項ロジスティック回帰分析
- 第8講 二元配置分散分析
- 第9講 三重クロス集計表の分析
- 第10講 因子分析(1)
- 第11講 因子分析(2)
- 第12講 主成分分析
- 第13講 クラスタ分析
- 第14講 構造方程式モデリング
- 第15講 多変量解析のまとめ

2) 統計学習コンテンツ

大学教育における統計学習の普及・促進を目的として当センターでは以下のコンテンツを作成した。各コンテンツの詳細については、以下の URL を参照。2011 年度はこれらのコンテンツを授業に積極的に活用し、また修正・改良を加えた。

<http://csi-stat.rikkyo.ac.jp> (各コンテンツには ID とパスワード入力が必要)

すたまる(公的統計総合学習コンテンツ)

Official Statistics Contents for Multi-user が、この統計コンテンツの名称である。愛称 は「すたまる」。政府統計の利用に主眼がある。18 講の構成で網羅的に政府統計が学習可能である。

すたまるの構成

◆統計一般基礎◆

- 第1講 統計の基礎
- 第2講 国内機関が提供する統計
- 第3講 国際機関が提供する統計

◆分野別統計◆

- 第4講 国土・交通を捉える統計
- 第5講 環境を捉える統計
- 第6講 人口・厚生を捉える統計
- 第7講 国民生活を捉える統計
- 第8講 経済・産業を捉える統計
- 第9講 教育・文化を捉える統計
- 第10講 財政を捉える統計
- 第11講 財務を捉える統計
- 第12講 金融取引を捉える統計
- 第13講 雇用・労働を捉える統計

◆加工統計◆

- 第14講 国際的な取引を捉える統計
- 第15講 社会経済人口指標体系
- 第16講 価格の変動を捉える統計

第 17 講 国民経済を体系的に捉える

第 18 講 開発経済を捉える統計

すたなび(総務省統計局統計学習コンテンツ)

Official Statistics Navigator が、この統計コンテンツの名称である。愛称は「すたなび」。

総務省統計局が実施する統計についての自習用 e-ラーニングコンテンツである。

すたなびの構成

項目名	コンテンツ内容
使い方	すたなびの使い方の解説
統計	総務省統計局が公表する調査統計や加工統計、業務統計のうち、主要な 20 の統計について、概要を紹介したもの(統計カード)。また、12 の統計については、結果の集計事項についてもまとめられている(統計集計カード)。
基礎知識	各統計を利用する上で知っておきたい基礎知識について。
基本問題	12 調査について、選択肢による基本問題が掲載されている。この問題を解くことにより、各統計で把握できることについて学ぶ。
分析事例	国勢調査、住宅・土地統計調査、全国消費実態調査、就業構造基本調査、社会生活基本調査の 5 調査について、分析事例が紹介されている。
匿名データ	新たに開始されたサービスとして、オーダーメイド集計と匿名データの提供のサービスについて紹介し、匿名データ利用に関する実習について学ぶ。
Data Storage Site	分析事例が用意されている 5 統計調査について、詳細な地域や(国勢調査)過去の統計調査結果について収録したもの。

立教版 G-Census

「使ってみよう統計データ(G-Census)」は、国勢調査などの統計データを地図の上で表現できる統計 GIS ソフトである。このソフトを利用することで、統計データが日本全国から市町村レベル、自分の身近な地域を知る上で重要である。

ポコ(将来人口推計コンテンツ)

Future Population Projection Contents が、このコンテンツの名称である。愛称は「ポコ」。

付属のワークとツールを活用して将来人口推計を行い、市町村における年齢別人口推移の予測を行う。

リコ(経済波及効果分析コンテンツ)

Repercussion Effect Analysis Contents が、このコンテンツの名称である。愛称は「リコ」。

付属のワークとツールを活用して経済活動における波及効果を分析する。

6. 研究支援

1) 調査研究コンサルティング

立教大学の大学院生や教職員を対象に、調査研究に関するコンサルティングを提供している。対応可能な内容は、統計的な社会調査の立案や実施、公的統計データの利活用、統計的分析に関する相談である。2011 年度は、のべ合計 31 件のコンサルティングを受け、昨年比 2.8 倍の相談件数の増加が見られた(昨年度は 11 件)。

これは学内での当コンサルティング業務への認知度の浸透とともに、大学院生からの相談が増えているからである。大学院生の相談件数ならびに学内での相談件数の内訳は以下の通りである。

◆ 大学院のコンサルティング依頼の学部別内訳

21 世紀デザイン研究科	1 件	
社会学部研究科	1 件	
文学研究科	1 件	
観光学研究科	2件	
ビジネスデザイン研究科	21 件	計 26件

◆ 学内機関よりの問い合わせ内訳

● 人権ハラスメント対策センター	1 件	
● 総長室	1 件	
● 日本語教育センター	1 件	
● リサーチイニシアティブセンター	1 件	
● 総長室 教学改革課	1 件	計 5 件

これらのコンサルティングの多くは一回にとどまらず、その後の調査経緯も含めて複数回のコンサルティング対応を取り行っている。

また学内機関より、以下の評価コメントをいただいた。「調査の要所要所で専門知識のある方からコメントをいただけたことは調査全体の質の向上に大いに役立ったと感じている。このような調査に関わるバックアップができる人的体制を CSI が作ることで、学内で実施する調査の質があがり、教育環境や研究環境の改善に資する部分は大きいと思う。今後は CSI の内部の人がコンサルタントをできるように体制を強化していただきたい」。

2) 立教大学社会調査データアーカイブ (RUDA)

名称 立教大学社会調査データアーカイブ

Rikkyo University Data Archive (RUDA)

URL <https://ruda.rikkyo.ac.jp/>

一般公開日 2011年 4 月 1 日

利用条件 利用条件 大学・研究機関に所属する研究者、および本務先を持たない研究者・大学院学生・学部学生がユーザー登録のうえ各データセットの利用申請を行うことができる。ただし、本務先を持たない研究者・大学院学生・学部学生の利用申請については、大学・研究機関に所属する研究者 1 名の承認を必要とする。利用目的は、社会調査データを利用した二次的分析といった研究目的、および授業での教育利用を前提とする。

立教大学社会調査データアーカイブは、社会調査(統計的調査)データを収集・整備し、研究・教育目的の二次分析のために提供を行う。社会調査(統計的調査)データを、ひろく収集・整理し、長期にわたり保管し、社会調査データを、ひろく研究目的や教育目的の二次分析のために提供する。特徴としては、学術研究の調査データを重点的に収集し、地域調査のデータを充実させていく。また、あらゆる社会科学的な調査データを幅広く扱う。そして社会科学の個人研究者や研究者グループによる学術研究調査データの蓄積にとくに力を入れていく。全国調査だけではなく地域調査データの蓄積の充実を計る。

2012 年 3 月 26 日に広報活動促進のためにリーフレットを作成した。

公開データセット一覧

- 1.調査名 東京版総合社会調査「高齢・少子社会における都市居住と家族・親族関係に関する調査」
調査主体 東京都立大学都市研究所・松本康
公開日 2010 年 10 月 1 日
- 2.調査名 名古屋都市圏調査
調査主体 名古屋大学文学部社会学研究室・東京都立大学大学院都市科学研究科・松本康
公開日 2010 年 10 月 1 日
- 3.調査名 都市生活と家族に関する意識調査
調査主体 ニッセイ基礎研究所・松本康
公開日 2010 年 10 月 1 日
- 4.調査名 都市居住と親族・友人関係に関する調査（名古屋 4 地点調査）
調査主体 名古屋大学文学部社会学研究室・松本康
公開日 2010 年 10 月 1 日
- 5.調査名 都市生活と生活意識に関するアンケート調査（名古屋 2 地点調査）
調査主体 名古屋大学文学部社会学研究室・松本康
公開日 2010 年 10 月 1 日
- 6.調査名 2007 GMFS - 10 City Survey "Quality of Life Survey"
調査主体 The Global Metropolitan Forum of Seoul
公開日 2010 年 10 月 1 日
- 7.調査名 少子化と就業女性の支援ネットワークに関する調査
調査主体 世田谷区・九州工業大学 / 安河内恵子
公開日 2010 年 10 月 1 日
- 8.調査名 都市特性と子育て支援ネットワークに関する調査
調査主体 森岡清志
公開日 2010 年 10 月 1 日
- 9.調査名 パーソナルネットワークに関する地域間・都市間比較調査
調査主体 森岡清志
公開日 2010 年 10 月 1 日
- 10.調査名 岩手県 暮らしと人間関係に関するアンケート
調査主体 東北大学大学院文学研究科行動科学研究室 / 籠谷和弘
公開日 2010 年 10 月 1 日
- 11.調査名 教育と友人関係に関する調査
調査主体 東京都立大学都市研究センター / 森岡清志

公開日 2010 年 10 月 1 日

12.調査名 社会意識に関する宮城県民調査
調査主体 立教大学社会学部 / 村瀬洋一
公開日 2010 年 10 月 1 日

13.調査名 くらしと教育についての仙台市民意識調査
調査主体 立教大学社会学部 / 村瀬洋一
公開日 2010 年 10 月 1 日

14.調査名 暮らしと仕事に関する仙台市民調査
調査主体 立教大学社会学部 / 村瀬洋一
公開日 2010 年 10 月 1 日

15.調査名 社会意識に関する東京住民調査
調査主体 立教大学産業関係研究所・村瀬洋一
公開日 2010 年 10 月 1 日

16.調査名 生活と環境に関する仙台市民意識調査
調査主体 生活環境研究会 / 海野道郎
公開日 2011 年 4 月 1 日

17.調査名 生活環境についての新座市民調査
調査主体 立教大学社会学部 / 村瀬洋一
公開日 2011 年 4 月 1 日

18.調査名 社会意識に関する仙台市民調査
調査主体 東北大学文学部行動科学研究室 / 村瀬洋一
公開日 2011 年 4 月 1 日

19.調査名 教師の社会意識と教育意識に関する全国調査
調査主体 小島秀夫
公開日 2011 年 6 月 23 日

20.調査名 養護教諭の社会意識と教育意識に関する全国調査
調査主体 小島秀夫
公開日 2011 年 6 月 24 日

21.調査名 高校管理職者の教育と職業意識に関する全国調査
調査主体 小島秀夫
公開日 2011 年 6 月 28 日

22.調査名 住みよいまちづくりと地域の国際化についてのアンケート
調査主体 ノートルダム清心女子大学 文学部現代社会学科地域社会学研究室 / 二階堂裕子

公開日 2012 年 1 月 20 日

23.調査名 多様化する暮らしと社会に関する調査

調査主体 グローバル消費文化研究会 / 間々田孝夫

公開日 2012 年 2 月 14 日

24.調査名 女性の就業とサポートネットワークに関する調査

調査主体 安河内恵子

公開日 2012 年 2 月 28 日

25.調査名 大学生のジェンダーと子育て意識・行動に関する調査

調査主体 村瀬洋一研究室

公開日 2012 年 3 月 16 日

3) その他

■ 公的統計二次利用制度

学術研究や高等教育への利用を図るため「匿名データの作成・提供」と「委託による統計の作成」、「オーダーメイド集計」の制度が整備された。独立行政法人統計センターが、「統計データアーカイブ」を運営する。当センターでは公的統計の二次利用制度活用のサポート・相談を行う。

現在利用可能な匿名データは、次の 4 つの統計である。

「全国消費実態調査(平成元年、6 年、11 年)」

「社会生活基本調査(平成 3 年、8 年、13 年)」

「就業構造基本調査(平成 4 年、9 年、14 年)」

「住宅・土地統計調査(平成 5 年、10 年、15 年)」

オーダーメイド集計に対応可能な統計調査は、次の 3 つの統計である。

「国勢調査(平成 2 年、7 年、12 年、17 年)」

「学校基本調査(平成 20 年度)」

「賃金構造基本統計調査(平成 18 年)」

一般利用者の申請窓口は独立行政法人統計センターとなるが、学術研究機関等に所属する者は統計センターの「サテライト機関」に申請するよう規定されている。サテライト機関は、統計センターとの間で連携の協定を交わし、統計センターに代わって申請の窓口となる法人のことで、現在、連携しているサテライト機関は一橋大学、神戸大学、法政大学の 3 大学である。立教大学でも将来的にはサテライト機関化を検討しており、社会情報教育研究センターを中心として、整備をすすめている。

また、2011 年度は公的統計 2 次利用制度に関する説明会を開催し、これら公的統計の二次利用制度に関する基本的な解説と、現在匿名データ、オーダーメイド集計として利用可能な統計の紹介、実際の分析事例等を紹介し、実際に利用申請する際の手続きと手順について説明を行った。

開催日 6 月 2 日(木)

場 所 立教大学池袋キャンパス 8 号館 8302 教室

講 師 小野寺 剛(CSI 助教)

参加人数 8 名(内訳:学生 6 名・教員 2 名)

7. 出版物等

- 長野県栄村調査報告書「3. 12 震災を乗り越え、結いの心で美しい自然を守る」

2012 年 3 月 26 日 200 部作成

- 英語版 CSI パンフレット

2012 年 3 月 26 日 3000 部作成

- RUDAリーフレット

2012 年 3 月 29 日 2000 部作成

- ホームページ

URL: <http://csi.rikkyo.ac.jp/>

・2011 年間更新回数 42 回

・主な更新履歴

2011/4/15 公開講演会レポートの更新

2011/4/15 公的統計「東日本大震災に関する情報」を更新

2011/4/21 名古屋市統計課ヒアリングレポートを更新

2011/5/9 公的統計関連新着情報ページを更新

2011/5/12 ミシガン大学 ICPSR Summer Program のご案内をお知らせ

2011/5/13 2011 年度前期 統計分析セミナー「統計分析ソフト SPSS による統計分析」開催のお知らせ

2011/5/13 2011 年度前期統計活用セミナー開催のお知らせ

2011/5/13 公的統計二次利用説明会のご案内をお知らせ

2011/5/17 専門社会調査士取得希望者のための S2 科目講習会参加者を追加募集のお知らせ

2011/6/1 社会調査士(見込み)前期申請受付のお知らせ

2011/6/1 公的統計関連新着情報ページを更新

2011/6/6 第 1 回 CSI 統計研究会のお知らせ

2011/6/17 ミシガン大学 ICPSR からのお知らせを掲載

2011/6/17 第 1 回 CSI 統計研究会のレポートを掲載

2011/6/27 第 2 回 CSI 統計研究会のお知らせ

2011/7/5 第 2 回 CSI 統計懇話会レポートを掲載

2011/7/6 公的統計関連新着情報ページを更新

2011/8/1 公的統計関連新着情報ページを更新

2011/8/3 第 2 回 CSI 統計研究会のレポートを掲載

2011/8/22 専門社会調査士取得希望者のための S1 科目講習会開催のお知らせ

2011/9/6 公的統計関連新着情報ページを更新

2011/9/6 社会調査士(見込み)後期申請受付のお知らせ

2011/9/6 高校生向け統計教育セミナーのレポートを更新

2011/9/13 長野県栄村長島田茂樹氏×菊地進教授インタビュー対談「結いのところで村民本意の村づくり～3.12 震災からの復興を目指す長野県栄村～」を掲載

2011/9/26 2011 年度後期 統計分析セミナー「統計分析ソフト SPSS による統計分析」池袋・新座開催のお知らせ

2011/9/26 2011 年度後期統計活用セミナー (POCO・RECO・すたまる・すたなび・G-Census) 開催のお知らせ

2011/10/1 中国国家統計局への訪問レポートを掲載

2011/10/12 2010 年度活動報告を掲載

2011/10/21 11 月 10 日統計分析セミナー新座 ND コース開催中止のお知らせ

2011/11/7 公的統計関連新着情報ページを更新

2011/11/18 日本銀行本店への訪問レポートを掲載

2011/11/25 調査・研究コンサルティングページを開設

2011/11/29 専門社会調査士取得希望者のための S2 科目講習会開催のお知らせ

2011/12/1 公的統計関連新着情報ページを更新

2011/12/13 第 3 回 統計懇話会レポートを掲載

2012/1/11 公的統計関連新着情報ページを更新

2012/1/16 第 3 回 CSI 統計研究会のお知らせ

2012/1/20 RUDA データアーカイブ公開情報を更新

2012/2/1 社会調査士申請受付期間(2012 年 2 月 29 日～3 月 14 日)のお知らせ

2012/2/17 ミシガン大学 ICPSR Summer Program からのお知らせ

2011/2/17 第 3 回公開講演会情報をお知らせ

2012/2/17 公的統計関連新着情報ページを更新

・年間累積アクセス数(2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日)

訪問数	11,445(昨年度 7,815)
ユニーク ユーザー数	7,916(昨年度 4,916)
ページビュー数	33,852(昨年度 24,345)

● Twitter(ツイッター)

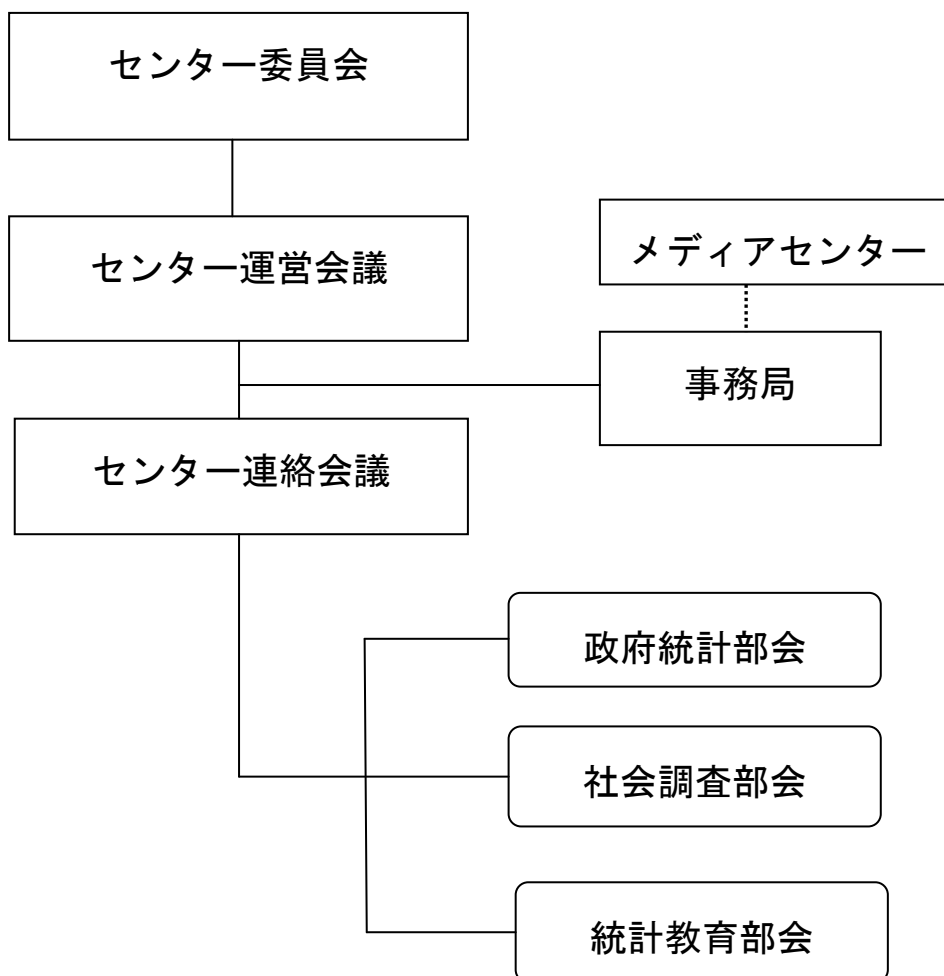
http://twitter.com/#!/Rikkyo_CSI

- ・2011 年 6 月 1 日開設
- ・2011 年度 34 ツイート
- ・フォロワー数 154名

8. 人事

退職(2012 年 3 月 31 日)
荒井 美智江

9. 組織図



10. メンバー一覧および各種委員会

(1) メンバー一覧

センター長	間々田 孝夫(社会学部教授)
政府統計部会リーダー	菊地 進 (経済学部教授)
社会調査部会リーダー	松本 康 (社会学部教授)
統計教育部会リーダー	山口 和範 (経営学部教授)
センター員	岩崎 俊夫 (経済学部教授)
	岩間 暁子 (社会学部教授)
	坂田 周一 (コミュニティ福祉学部教授)
	小野寺 剛 (助教)
	廣瀬 毅士 (助教)
	金澤 悠介 (助教)
学術調査員	倉田 知秋
	三田 泰雅
	田中 潮

事務局

宮内 文隆 (メディアセンター)
根岸 千佳 (メディアセンター)
荒井 美智江(助手)
石幡 繁子 (助手)

(2) センター委員会

間々田 孝夫(社会学部教授)
菊地 進 (経済学部教授)
松本 康 (社会学部教授)
山口 和範 (経営学部教授)
岩崎 俊夫 (経済学部教授)
岩間 暁子 (社会学部教授)
坂田 周一 (コミュニティ福祉学部教授)
東條 吉純 (法学部教授・教務副部長)
平山 孝人(理学部教授・メディアセンター長)
宮内 文隆 (メディアセンター)
根岸 千佳 (メディアセンター)
荒井 美智江(助手)
石幡 繁子 (助手)

(3) センター運営会議

間々田 孝夫(社会学部教授)
菊地 進 (経済学部教授)
松本 康 (社会学部教授)
山口 和範 (経営学部教授)
坂田 周一 (コミュニティ福祉学部教授・陪席)
宮内 文隆 (メディアセンター)
根岸 千佳 (メディアセンター)
荒井 美智江(助手)
石幡 繁子 (助手)

(4) センター連絡会議

間々田 孝夫(社会学部教授)
菊地 進 (経済学部教授)
松本 康 (社会学部教授)
山口 和範 (経営学部教授)
岩崎 俊夫 (経済学部教授)
岩間 暁子 (社会学部教授)
坂田 周一 (コミュニティ福祉学部教授)
小野寺 剛 (助教)
廣瀬 毅士 (助教)
金澤 悠介 (助教)
倉田 知秋 (学術調査員)
三田 泰雅 (学術調査員)

田中 潮 (学術調査員)
宮内 文隆 (メディアセンター)
根岸 千佳 (メディアセンター)
荒井 美智江(助手)
石幡 繁子 (助手)
櫻本 健 (経済学部助教・陪席)
藤野 裕 (経済学部助教・陪席)

(5) 政府統計部会定例会議

菊地 進 (経済学部教授)
岩崎 俊夫 (経済学部教授)
小野寺 剛 (助教)
倉田 知秋 (学術調査員)
藤野 裕 (経済学部助教)
櫻本 健 (経済学部助教)
荒井 美智江(助手)

(6) 社会調査部会定例会議

松本 康 (社会学部教授)
岩間 暁子 (社会学部教授)
坂田 周一 (コミュニティ福祉学部教授)
廣瀬 毅士 (助教)
三田 泰雅 (学術調査員)

(7) 統計教育部会定例会議

山口 和範 (経営学部教授)
金澤 悠介 (助教)
田中 潮 (学術調査員)

以上